

会 議 録

会議の名称	平成29年度第3回行田市男女共同参画推進審議会	
開催日時	平成29年11月22日(水) 開会；午後3時・閉会；午後4時30分	
開催場所	行田市男女共同参画推進センター 学習室	
出席者(委員) 氏 名	田代美江子委員(会長)、山崎孝子委員(副会長)、井上文子委員 茂木美智代委員、山岸泰輔委員、筆 容三委員、西山カツ枝委員、 川村達也委員、梅田伸一郎委員、大野久美子委員 (名簿順、敬称略)	
欠席者(委員) 氏 名	金井さち子委員、高澤有司委員、吉田廣明委員、大久保優子委員、	
事務局	岡田安弘(所長)、芹澤勝己(主査)	
会議内容	(1) 平成28年度分第3次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書に対する行田市男女共同参画推進審議会の評価及び意見について (2) 平成30年度事業(案)について	
会議資料	(1) 平成28年度分第3次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書に対する行田市男女共同参画推進審議会の評価及び意見(案) (2) 平成30年度事業計画(案)	
その他必要 事項	傍聴者なし	
会 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	平成29年11月30日	田代美江子 

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	・ 開会 ・ 挨拶（田代会長） ・ 欠席者の報告 ・ 配布資料の確認 ・ 議長の選出（田代会長） ・ 本日の会議は委員の過半数が出席しており会議は成立している。 ・ 非公開とする事項はなく、会議の傍聴希望者もいない。
議長	・ それでは、議長を務めさせていただきます。 ・ 次第に基づき議事を進行する。 ・ 議事の（１）平成２８年度分第３次ぎょうだ男女共同参画プラン進捗状況報告書に対する行田市男女共同参画推進審議会の評価及び意見について、事務局より説明を求める。
事務局	【資料（１）に基づき説明】
議長	・ 事務局から説明があったが、委員から意見、質問などあるか。
西山委員	・ 資料にＡ～Ｅ評価がない。
議長	・ 審議会としてのＡ～Ｅ評価をしたほうがいいということか。
西山委員	・ 審議会の評価及び意見にＡ～Ｅ評価を載せる必要はないが、審議会での資料にはＡ～Ｅ評価があったほうが議論しやすいのではないか。
井上委員	・ 評価が各課ごとの主観的な評価となっている。
議長	・ 最初、個別評価はなかったが、他課のどこが評価されているのかわかったほうがいいということで個別評価をつけることになった。Ａ～Ｅの評価よりもなにをすればいいのかが重要だ。
大野委員	・ 女性委員が同じ２名でも評価が違うものがある。
西山委員	・ 個別評価は個人の意見で全体の意見ではない。
梅田委員	・ 今日認められれば個人の意見でも全体の意見だと思う。
川村委員	・ 個別評価と書いてあるので問題はないと思う。

議長	・男女共同参画がよく分かっていない課もあることを入りたい。
川村委員	・計画と実績が同じになっているものもある。数値や特徴などを書いてもらいたい。
梅田委員	・プランの真ん中の年なので、女性委員の割合が何%になっているのか入れたほうがいい。女性委員の割合は若干上がっているが、40%になるよう更なる努力をしてほしい。
山崎副会長	・担当部署の自己評価のレベルは上がっている。男女共同参画の意識も上がっている。次のステップに進んでいい。去年はワークライフバランスという言葉を使ったが、ワークライフバランスという言葉も一般に浸透してきている。次のキーワードを先取りして入れたらどうか。審議会に参加されている方は意識が高い。
議長	・男女共同参画は浸透してきてはいるがまだまだ。日本のジェンダーギャップ指数は139カ国中114位だ。残り5年間、各課自身で男女共同参画の課題を見つけて取り組んでほしい。行田市ならではのものをいれられたらいい。
筆委員	・10年間で女性委員の割合を40%にするには、来年度は何%にすると計画しなければいけない。 ・以前、婦人服は男性が作っていたが、女性が現場に入ってより売れるようになった。公民館は女性のほうがうまく運営できる。ただし、失敗するとたたかれる。そのため男性がいて女性をかばってあげないといけない。 ・女性が40%集まって、女性が活躍するためはどのような体制にすればいいのか意見を出し合うべき。今の体制では女性はえらくなりたくなし、できる体制になっていない。
議長	・段階的に女性の割合をあげていけないといけない。
筆委員	・課ごとに数値目標をもってほしい。
議長	・女性登用について数値目標を立てて、目標を達成するためにはなにをしたらいいのか考えてほしい。
筆委員	・女性をいれてからでないと女性が活躍できる体制を考えること

議長	はできない。 ・まず、女性を入れてからでないところを改善したら女性が活躍できる体制になるのかわからない。
筆委員	・女性が活躍できる体制は、都心と比べ行田市は遅れている。実際に女性が入るとどうしたらいいのか修正点が見えてくる。
議長	・現状では男性らしい女性が管理職になったりする。40%になると雰囲気が変わり、25%では変わらないといわれている。女性が少ないと女性は男性と同じように振舞ってしまう。
筆委員	・女性の割合は50%以上でもいい。毎年検討します、検討しますではなく数値目標を持ってほしい。
議長	・計画期間内に達成できるような毎年の目標を立ててそれに向けて努力してほしい。
川村委員	・子ども未来課が目標として「男女の別なく相談を受ける」と書いていたのが気になった。相談事業自体が重要であり、この事業をいかに充実させていくのかを書いてほしい。
議長	・記入例を参考にして書いたためにこうなったのだろう。男女の別なくやることでは男女共同参画にはならない。学校で男女同じことをやっているから問題がないのではない。個別のコメントとして、男女の別なく取り組めばそのまま平等につながるわけではないことを認識してほしいと入れたい。
筆委員	・40%がいいかはわからないが、目標が40%ならばそれに近づけるようにすべきだ。
議長	・女性が参加すればいいというわけではないことを理解してほしい。
梅田委員	・男女は同じでなくてもいい。このことについて表現は気をつけないといけない。区別することを否定するだけでは男女平等にはならない。
山岸委員	・多様性は必要だ。
議長	・男性の育休についてはどうか。
山岸委員	・後輩に聞くと育休をとれる空気ではないといわれる。また、休

	んでもなにをしたらいいいのかわからないので働いていたほうがいいとも言っていた。
議長	・育休を取りにくい雰囲気改善してほしい。短期で取れることを知らない人もいる。
筆委員	・父親が育児をしている家もある。
議長	・パパのコミュニティーは行田市にあるのか。
山岸委員	・幼稚園ごとのものはある。
議長	・さいたま市には「さいパパ」というパパのコミュニティーがある。
井上委員	・一週間でも育休を取って家事と育児の同時進行を経験してきた男性は職場でも複数の仕事を同時進行できるようになる。
議長	・意識調査の項目については削っていいのではないか。また「男女共同参画の視点から」ではなく具体的に又は数値目標を書いてほしいということを入れたい。
梅田委員	・個別評価で「評価します」というものと「成果が伺えます」というものがあるが「評価します」にまとめたほうがいいのではないか。
議長	・委員の皆様の評価及び意見を会長で取りまとめて、委員会の評価及び意見としたいがよろしいか。
委員全員	・はい。
議長	・次に、議事の（２）平成３０年度事業計画（案）について、事務局より説明を求める。
事務局	【資料（２）に基づき説明】
議長	・只今の説明について、ご意見・ご質問などあるか。
井上委員	・夫婦対象セミナーでは何を行うのか。
事務局	・具体的にはまだ決まっていない。
議長	・業者に委託するのではなく、ネットワーク会議など民間の力を活用してほしい。

事務局 筆委員	・身近な方から講師を発掘したい。企画をいただければ検討する。 ・予算的には来年に向けて一から見直すようにいわれている。隣の公民館と合同、または、加須のげんきプラザと合同で行事を行ったりする。
議長 井上委員 山崎副会長	・業者にまる投げするよりも自分たちで実施したほうがいい。 ・先週セミナーに参加したが参加者は5人だけだった。 ・別のセミナーに参加したが参加者は15, 6人だった。他市から来ている参加者もいた。
議長	・他には、いかがか。よろしいか。 ・では、他になれば、以上で議事を終了する。
議長 事務局 議長	・次に、4 その他について、事務局より説明を求める。 ・今後の事業予定について説明 ・只今の説明について、何か意見はあるか。 ・他には、いかがか。
井上委員	・文部科学省の男女共同参画課を共生社会学習推進課と改名しその中に男女共同参画学習室をつくるという記事が10月の毎日新聞に載っていた。これに反対する要望書を作ろうという動きがある。
議長	・他には、いかがか。よろしいか。 ・評価及び意見については、本日の意見等を加味し、再度修正し、委員の皆様を送付し、確認後、決定する方向でいく。 ・以上ですべて終了した。これをもって議長の任を解かせていただく。
司会 山崎副会長	・閉会の言葉を山崎副会長にお願いします。 (閉会の言葉)